

遊びと学びをつなげる 9年間を見据えた教育

玉川大学教育学部 教授
東一の江こども園 園長
田澤 里喜

1

自己紹介

- ・ **玉川大学 教育学部 教育学科 教授**

今年で19年目 出身も玉川大学、初めて勤務したのも玉川学園幼稚部

- ・ **学校法人田澤学園東一の江こども園園長**

3代目、今年9年目 5年前に園内にて小規模保育事業開始

今年度より幼稚園型認定こども園になり園名変更

- ・ **その他**

厚生労働省 保育専門調査官（2017）

文部科学省 「幼児理解に基づいた評価に関する検討会」委員（2018）

東京書籍株式会社小学校生活科教科書『あたらしいせいかつ』編集委員（2019～）

江戸川区 児童福祉審議委員（2020～）

厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務再構築のためのガイドライン」作成協力者（2021）

世田谷区 実践充実コーディネーター（2021～）

- ・ **<連載>**

「ぷりぷり」（世界文化社）・「保育とカリキュラム」ひかりのくに

「保育ナビ」定期購読特典メーリングリスト（フレーベル館）

2

幼保小の架け橋プログラム事業

令和4年度予算額

1.8億円
(新規)

背景

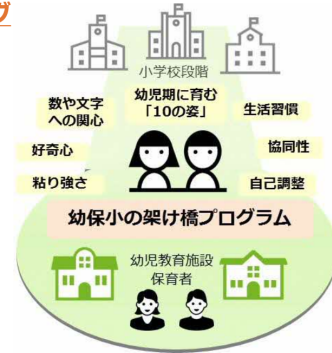
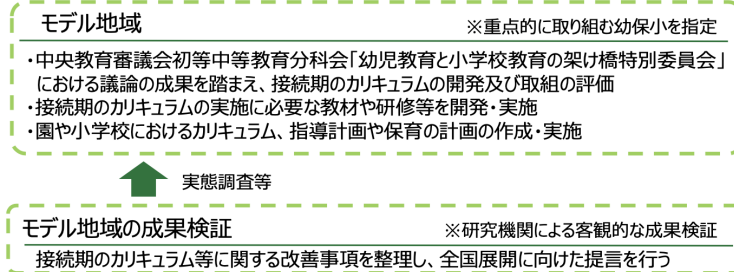
幼保小の接続期の教育の質的向上に向け、全ての子供たちの多様性にも配慮した上で**学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」**について、全国的な取組の充実と併せて、実施モデル地域において具体的に開発し実践を行い、その成果の検証等を実施する調査研究を行う。

事業内容

モデル地域における検証等を通じた「幼保小の架け橋プログラム」の開発・改善

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりに、一人一人の多様性に配慮した上で全ての幼児に学びや生活の基盤を育む『**幼保小の架け橋プログラム**』の開発・実践を進める。

※全国的な取組の充実と併せて実施



対象校種 幼稚園、保育所、認定こども園、小学校

委託先 モデル地域として都道府県、市区町村 等

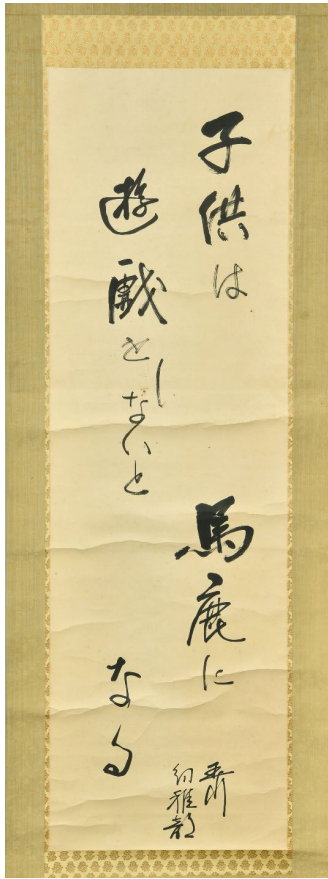
箇所数 12箇所、700万円/箇所 等

委託 調査研究に必要な経費
対象経費 (人件費、委員旅費、謝金等)

54

学校教育法 第二十二條

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、
幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために
適当な環境を与えて、
その心身の発達を助長することを目的とする。



子供は 遊戯をしないと 馬鹿になる

小原 國芳

5

幼小要領等 歴史的変遷（近年のみ）

	幼稚園教育要領	小学校学習指導要領
1958年（昭和36年）		告示
1964年（昭和39年）	告示	
1968年（昭和46年）		告示
1977年（昭和55年）		告示
1989年（平成元年）	告示	告示
その後ほぼ10年ごと改訂（定）		

幼稚園教育要領が変更されない間に団塊ジュニアの入園他で園児・園数増があった
教育要領の考え方が正しく伝わらず、また、時代背景もあり、画一的、一斉的な幼児教育が広がったと
考えられる。

6

入学式の翌日に「小学校は幼稚園
までとは違います」と宣言し、
「手はお膝」「お口チャック」（中
略）といった、全くの教師の都合
に過ぎない規律訓練を幼小接続だ
と考えてきた不幸な時代は、よう
やく終焉の時を迎えるのです。

奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社,2017

7

学校の臨時休業中、子供たちは、
学校や教師からの指示・発信がない
と、「何をして良いか分からず」学び
を止めてしまうという実態が見られ
たことから、これまでの学校教育で
は、自立した学習者を十分育てられ
ていなかったのではないかという指
摘もある。

文部科学省「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」（中教審答申）,2022

8

いろいろなことが
わかってきた。

9

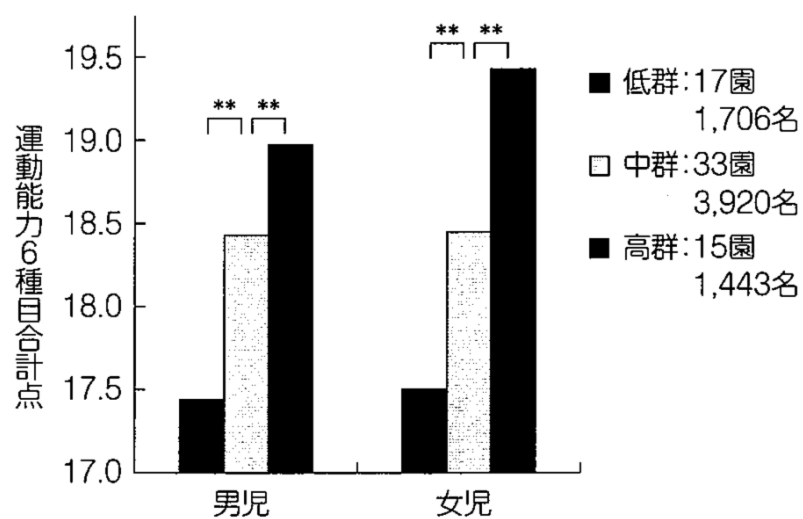
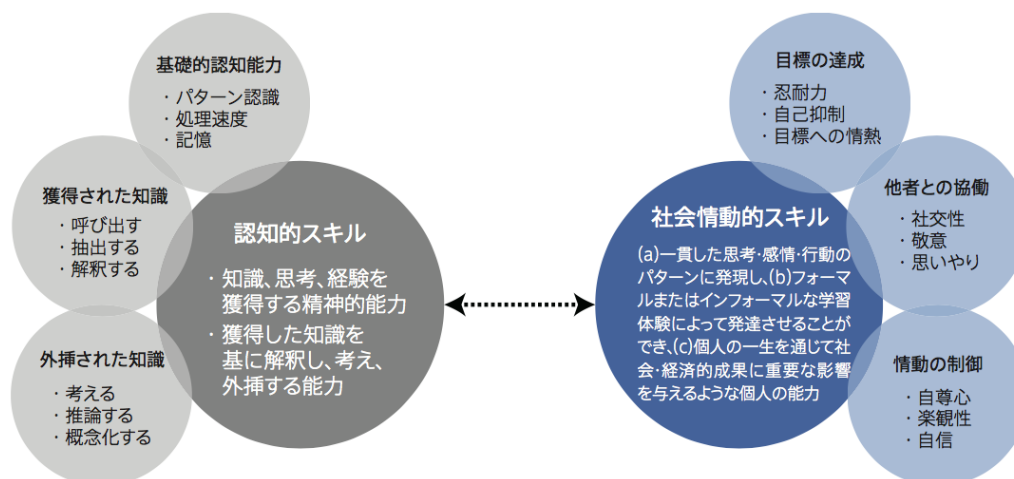


図4-3 遊び志向得点別に見た運動能力の比較

(注) ** $p < 0.01$

出所: 杉原ほか (2010) より。

図2.1 認知的スキル、社会情動的スキルのフレームワーク



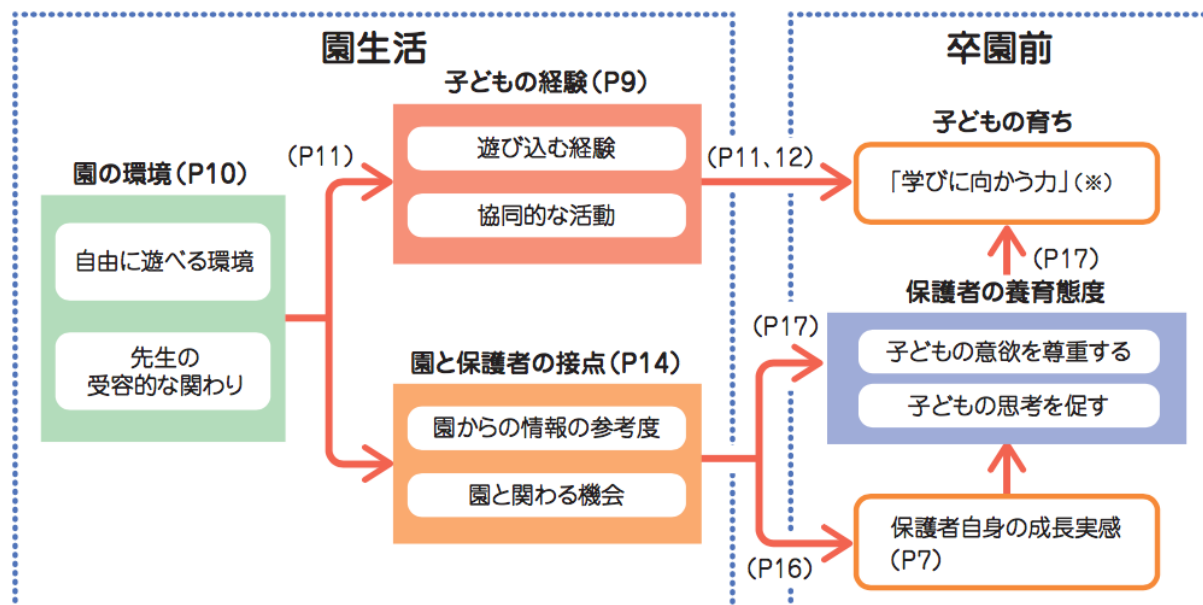
出典：OECD(2015)

OECD・ベネッセ教育総合研究所

「家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成」

<本調査で明らかになった主な関連>

*矢印は、本調査で明らかになった各要素の関連を示す（一部、本レポートで図示を省略しているものも含む）



※「学びに向かう力」について

本調査では、子どもの育ちとして「好奇心」「協調性」「自己統制」「自己主張」「がんばる力」を「学びに向かう力」と設定して、園生活との関連を調べた。「学びに向かう力」は生涯にわたり、社会生活を営むうえで基盤となる力である。また、「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」(ベネッセ教育総合研究所)において、小学校入学以降の学習や生活につながる幼児期の学びとして設定した3つの軸(「学びに向かう力」「文字・数・思考」「生活習慣」)のひとつである。

ベネッセ教育総合研究所「園での経験と幼児の成長に関する調査」2016

回転寿司屋さんをやりたい!

13

「問と答との間を曲がりくねって
考えぬいていく過程、
その間で人間は発達を遂げる
というようなものだと思う。」

大田堯『学力とはなにか』国土社1990

14

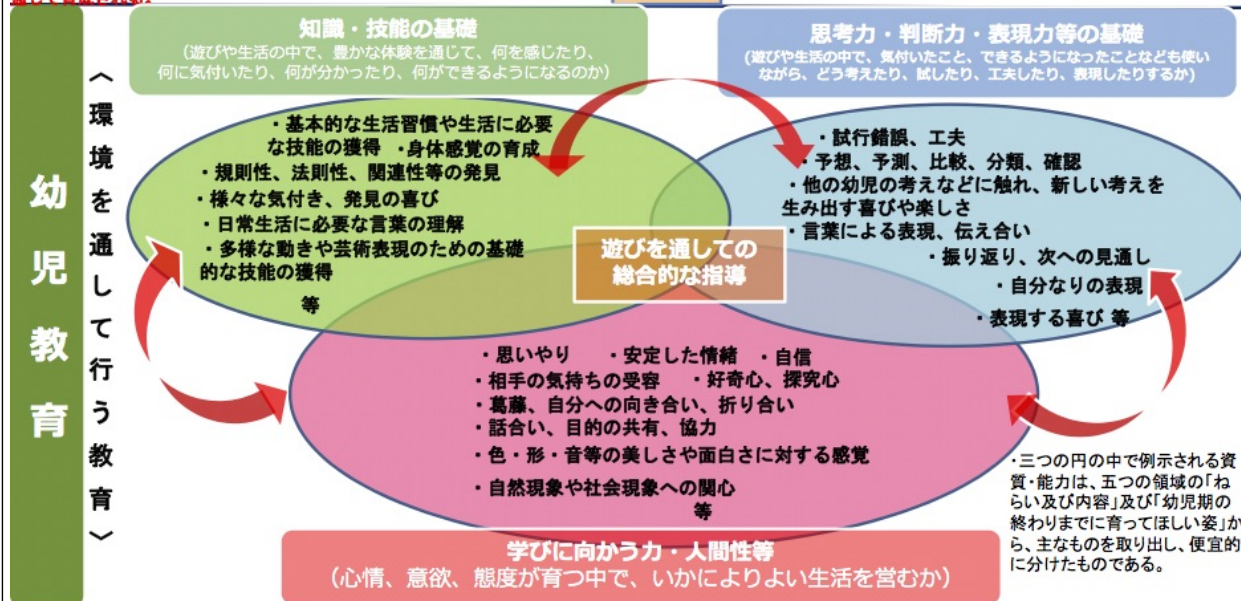
小学校
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

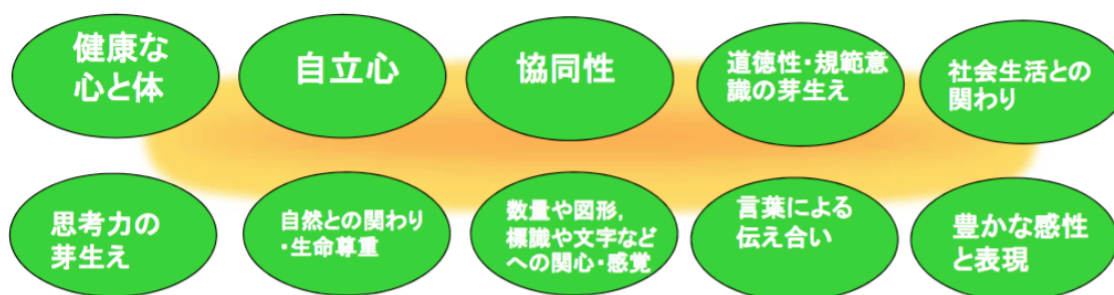
※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。



中教審 「幼児教育部会における審議のとりまとめ」より

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○ 5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである



○幼稚園等と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることを期待。

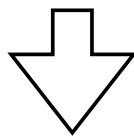
○3歳児，4歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが，この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっていくことに留意。

保護者から

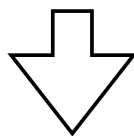
「遊んでばかりで
小学校大丈夫ですか？」
と聞かれたらどうしますか？

19

45分座っていられるって？



興味関心がたくさんある
いろんなことをおもしろがる



遊びの中で獲得していくことでは。

20

小学校も変わる？

21



世界文化社
『幼児教育から小学校教育への接続』2020

22